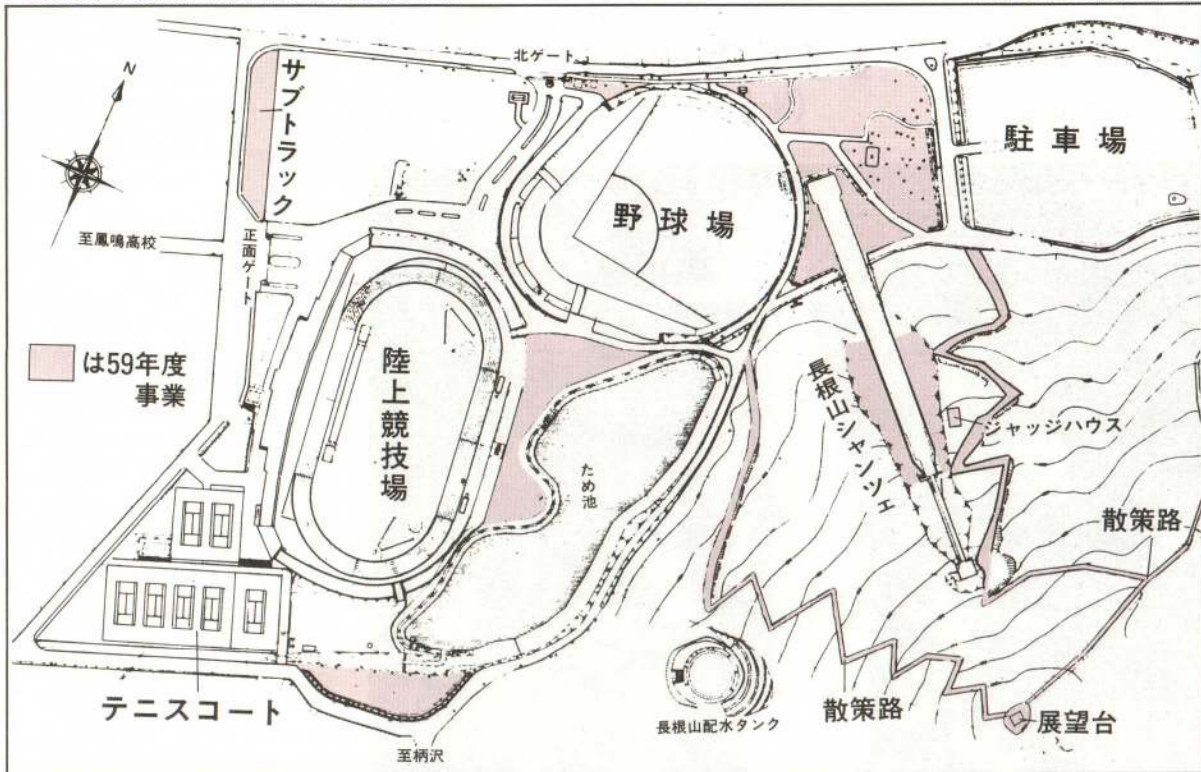


長根山運動公園が全面完成間近

最終事業であるサブトラック、展望台、散策路などを建設中



昭和四十六年十二月に始まった長根山運動公園建設事業は、五十三年の野球場を初めとしてテニスコート(七面)や全天候型の第二種公認陸上競技場、オールシーズン利用できる長根山ジャンツエなどの施設が次に完成し、市民の皆さんに利用されています。そして今年度は、一億一千万円で陸上競技場のサブトラック(全天候型の七十、六コースと三段跳び・幅跳び練習場)や、長根山ジャンツエのジャッジハウス、長根山頂上に同公園を見渡すことのできる展望台、各施設の周囲に樹木の植栽などの工事が行われており、来年三月全面完成となります。

着工以来十四年の歳月とおよそ十八億円(郵政省簡易保険からの融資など)の費用をかけた同公園は、秋田市八橋運動公園に次ぐスポーツ施設として、全県規模の各種スポーツ大会を開くことができます。

同公園は、岩神沢生活環境保全林とあわせて市民の皆さんにスポーツはもちろん、レクリエーションや散策の場として四季を通じて大いに利用していただきたいものです。

▼長根山運動公園の各施設を利用するときは、社会体育課(市民体育館内)へ。
☎42-0310、43-0484

電子通信機用小型コイルを生産
株東北光輪を誘致

市では、雇用の拡大と地域経済の活性化を図るため企業誘致を進めています。今回新たに電子通信機用の小型コイルを製造する「株式会社 東北光輪」を誘致しました。

同社は、山形県東根市が本場で、すでに秋田県内には三工場が設置されており、当市にはその統括的な機能をもつ拠点工場を新設することになったものです。

新工場は、現在下代野地内に建設中で、今年十二月から従業員五十人でスタートし、将来四百二十人(男七十人、女三百五十人)まで増員される予定になっています。大館工場で製造された製品は、東京にある親会社の「株式会社 東北技研」を通じて、大手電器メーカーに販売されます。

市長の対話ノート



No.100

国鉄をめぐる論議

鷹角線の第三セクター運営が決まりました。必要やむを得ないことだと思います。

なぜ大館始発にできないのかという質問がありますが、大館と鷹角間は国鉄線ですから第三セクター路線にならないということなのです。

開業後の営業成績をあげるために相互乗り入れになる可能性は十分あることですが、それは今後の協議次第ということになります。

花輪線はどうなるだろうか私にもわかりません。果間を結ぶ、しかも百キロを超える距離からすれば、とてもバスの代替えも、第三セクターでも運営出来るものではないことだけは確かです。従って沿線住民だけの問題ではないので、どこまでも国鉄として運営させる県民運動に行かなければと思います。

十二所駅の業務委託化が、見切り発車しました。当時から私はこのやり方は将来無人化につながると言って反対しました。この意見を批判する方もありましたが、それが現実のものになろうとしています。

今更くやんでも仕方のないことですが、業務委託を残すために今後とも国鉄の理解と協力を求めて最善の努力を尽してまいりたいと存じますので、皆さんのご支援をお願いいたします。

留山健治郎